

# 看護学科 教育(学内授業)領域における自己評価書

参 考

被評価者	所属名	職名	氏名

**<能力評価> 基礎科目担当教員は、該当する評価指標のみを対象として評価する**

能力	評価指標	評価			
		自己	1次	2次	最終
授業設計能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムポリシーをふまえて担当科目の位置づけを理解し、科目の目的・目標が設定できる。</li> <li>・学生の学習能力や生活体験を理解して、学習レディネスとして把握できる。</li> <li>・科目の目標達成に向けて、各コマの学習目標と学習方法の組み立てができる。</li> <li>・学生の担当科目への理解を深め、興味を引き出すような授業方法・課題の工夫ができる。</li> <li>・科目の各コマにおける「導入・展開・まとめ」を設計できる。</li> <li>・学生が、看護概念と看護現象を関連づけて理解できるように、教材作成ができる。</li> <li>・最新の看護の動向や学問動向、地域の健康課題、研究成果などを授業に活用できる。</li> </ul>				
授業実行能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当科目の学習目的・目標を提示し、学生の興味関心を喚起させることができる。</li> <li>・学生が、看護概念と看護現象を関連づけて理解できるように、論理的かつ臨場感をもって説明や演示ができる。</li> <li>・自分の説明や行為に対する学生の反応を把握し、状況に応じて軌道修正できる。</li> <li>・学生の主体的学習が促進するように、学生参加型授業の創意工夫ができる。</li> <li>・協同的学習が促進するように、適切な学習課題を提供し、活発なグループ学習を展開できる。</li> </ul>				
授業評価能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始前に、ディプロマポリシーをふまえた担当科目の評価方法を計画し、学生にも提示できる。</li> <li>・学生が主体的に自己評価に取り組めるように、具体的に明解な評価指標と評価方法の開発ができる。</li> <li>・学生が評価の結果に納得し、学習意欲につながるようなフィードバックができる。</li> <li>・学生の学習成果を自分の教育の評価として受け止め、改善に活かすことができる。</li> </ul>				
<p><b>【評価基準】</b>                      5：他者の模範となる。      4：自立して安定してできる(他者に指導できる。)。      3：ほぼ自立して安定してできる。                      2：努力しているが支援を必要とする。      1：知っているが実行できない。</p>					

**<業績評価>**

業績項目	数	ウェイト	点数
<b>(1)-1 教育に要した時間等</b>			
①担当授業科目	科目数		
	担当コマ数		
②学部・専攻科の卒研指導	当該年度卒業予定者		
<b>(1)-2 教育に要した時間等(大学院)*</b>			
①担当授業科目(博士前期課程, 研究コース)	科目数		
	担当コマ数		
②担当授業科目(博士前期課程, 実践者養成コース)	科目数		
	担当コマ数		
③担当授業科目(博士後期課程)	科目数		
	担当コマ数		
<b>(2) 教育方法の改善や工夫</b>			
①教育方法の実践例の有無			

業績項目	数	ウエイト	点数
(3) 作成した教科書、教材			
① 作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等の有無 〔概要〕（研究業績との重複可）			
(4) 教育上の社会評価（表彰、感謝状など）			
① 表彰等の有無 〔概要〕			
(5) その他客観性のある評価結果			
① 評価結果の有無 〔概要〕			

※ 有の場合、数の欄に1を記載。

<次年度の課題と目標>

★ 次の「教育領域の評価」の欄は、学内授業のみ担当している場合にはその評価を、学内授業と臨地実習の両方を担当している場合にはあわせた評価を記載してください。

(学内授業のみ担当している場合、教育領域(臨地実習)における自己評価書の教育領域の評価の欄には記載しないこと。)

	自己評価	第1次評価者	第2次評価者	最終評価者
教育領域の評価	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D
特記事項				
評価者職氏名		印	印	印
大学院に関する記載 (*)の確認者職氏名		印		

※ S・A・B・C・Dのいずれかに○を記載

**看護学科 教育(臨地実習)領域における自己評価書**  
 校内授業のみ担当している場合は、本項目である教育(臨地実習)の評価は記載しない

被評価者	所属名	職名	氏名

**<能力評価>**

能力	評価指標	評価			
		自己	1次	2次	最終
臨地での 学生理解 能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生との対話や観察を通して、学生が置かれている状況、感情、思考、行動などを統合し、学生を全体的に理解できる。</li> <li>・学生が経験している看護について、看護展開の現状と問題点及び方向性について把握できる。</li> <li>・個々の学生の現時点での状況判断能力や問題解決能力を査定し、学習上の問題や課題を見出すことができる。</li> <li>・学生のいかなる言動に対しても、自分の感情をコントロールして向き合うことができる。</li> <li>・学生と対象者、学生とスタッフなど、人間関係に問題がないか把握できる。</li> <li>・学生同士の人間関係やグループダイナミクスが把握できる。</li> </ul>				
臨地での 学習支援 能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が自分の置かれている状況や問題を適切に認識できるような関わりができる。</li> <li>・学生が直面している問題に対して、主体的に考えて行動できるように示唆を与え助言指導できる。</li> <li>・学生の看護展開に対して、アセスメントや計画立案が進むように専門的知識技術を使ってタイミング良く助言指導できる。</li> <li>・学生が実施した看護を振り返って、体験を意味づけ課題が発見できるように助言指導できる。</li> <li>・学生が実習記録やカンファレンスで論理的に思考し適切に表現できるように指導できる。</li> <li>・学生のグループダイナミクスが活性化するように支援できる。</li> <li>・多様な学生の認識や行動を個性として受け止め、学生が前向きに取り組めるように支援できる。</li> <li>・実習進行中、指導に沿って形成評価を行い、最終的には学生の自己評価と教員の客観的評価を一致させることができる。</li> </ul>				
臨地での 調整能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設の状況を理解しながら、学生が実習しやすい学習環境へと調整できる。</li> <li>・学生と指導側の意見の対立が生じた場合、適切に調整できる。</li> <li>・学生に対する倫理的問題となる患者や指導側の態度言動から学生を擁護し、双方に適切にアプローチできる。</li> <li>・学生がインシデントや事故を起こした場合、学生、患者、施設側など全ての人への対応処理が適切にできる。</li> <li>・学生への良い指導や関わりに対して、タイミング良く感謝やフィードバックができる。</li> </ul>				
<p><b>【評価基準】</b>                      5：他者の模範となる。 4：自立して安定してできる(他者に指導できる。)。 3：ほぼ自立して安定してできる。                      2：努力しているが支援を必要とする。 1：知っているが実行できない。</p>					

**<業績評価>**

業績項目	数	ウェイト	点数
<b>(1)-1 教育に要した時間等</b>			
①臨地実習の担当科目	科目数		
	指導担当時間数 (8時間×日数で積算)		
<b>(1)-2 教育に要した時間等(大学院)*</b>			
②担当授業科目 (博士前期課程, 実践者養成コース)	科目数		
	指導担当時間数 (8時間×日数で積算)		
<b>(2) 指導方法の工夫や改善</b>			
①指導方法の工夫や改善の有無			
	【概要】(実習報告書や実習評価の記述報告内容から記載)		

※ 有の場合、数の欄に1を記載。

<次年度の課題と目標>

--

★ 次の「教育領域の評価」の欄は、臨地実習のみ担当している場合のみ、記載してください。

(この場合、教育領域(学内授業)における自己評価書の「教育領域の評価」の欄には記載しないこと。)

	自己評価	第1次評価者	第2次評価者	最終評価者
教育領域の評価	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D
特記事項				
評価者職氏名		印	印	印
大学院に関する記載 (*)の確認者職氏名		印		

※ S・A・B・C・Dのいずれかに○を記載。

※ 教育領域の評価の欄は、臨地実習のみ担当している場合のみ、記載すること。

(この場合、教育領域(学内授業)における自己評価書の教育領域の評価の欄には記載しないこと。)

## 看護学科 研究領域における自己評価書

被評価者	所属名	職名	氏名

＜能力評価＞ 基礎科目担当教員は、看護学研究を「研究課題」と置き換えて該当指標で評価する

能力	評価指標	能力評価			
		自己	1次	2次	最終
研究遂行能力	○以下の点に着眼した看護学研究に取り組むことができる。 ・研究目的・方法などにオリジナリティの豊かさがある。 ・当該分野における新たな発見や発展の可能性を示している。 ・プログラム開発など、実践的有用性に優れ看護の質の向上に対する貢献が大きい。 ・アウトカム等の開発など、社会における看護の機能/有効性を証明している。 ・看護学の理論的探究・実践的探究として、意義が大きい。 ○看護学研究の特性を配慮した研究ができる。 ・研究フィールドと互いの利益になるような良好な関係がとれる。 ・看護学研究の倫理をふまえて研究できる。 ・データの特性に応じて適切に分析できる。 ○学術的に著述できる。				
研究実施調整能力	・時間管理して研究に費やす時間を確保し、集中力を発揮して実行できる。 ・競争的資金を獲得し、研究費を効果的に運用できる。 ・研究活動を促進するための人的物的資源を活用できる。 ・人的ネットワークをつくり組織的な研究活動に参加できる。				
研究成果発信能力	・自身の研究成果を計画的に公表し戦略的に発信できる。 ・他者の著書論文に引用される。 ・地域の看護（または課題）の分析や地域貢献活動に研究成果を活用できる。				
<b>【評価基準】</b> 5：他者の模範となる。      4：自立して安定してできる(他者に指導できる。)。      3：ほぼ自立して安定してできる。 2：努力しているが支援を必要とする。      1：知っているが実行できない。					

＜業績評価＞

業績項目					件数				ウエイト	点数	
					前々年	前年	当年	計			
<b>(1) 論文・著作活動</b>											
①著書	欧文	学術書	単著	執筆					5		
			共著	執筆					5		
			編集						3		
		教科書	単著	執筆						5	
			共著	執筆						5	
			編集							3	
	和文	学術書	単著	執筆						5	
				訳						4	
			共著	執筆						4	
		教科書		編集						2	
				訳						2	
				訳						2	
②学術論文	国際	原著	欧文	単著・筆頭・責任著者					5		
				共著						3	
				共著						3	
		総説	欧文	単著・筆頭・責任著者						5	
				共著						3	
				共著						3	
		研究報告	欧文	単著・筆頭・責任著者						3	
				共著						2	
				共著						2	



(以下は当該年のみ)

業績項目		件数	ウエイト	点数
<b>(3)-1 研究指導(研究指導教員) *</b>				
○大学院博士前期課程				
・研究コース	指導学生数			
・実践者養成コース	指導学生数			
○大学院博士後期課程				
指導学生数				
<b>(3)-2 研究指導補助(研究指導教員以外) *</b>				
○大学院博士前期課程				
・研究コース	指導学生数			
・実践者養成コース	指導学生数			
○大学院博士後期課程				
指導学生数				
<b>(3)-3 研究計画書・論文審査での各役割 *</b>				
※役割に○をし、件数を記載				
○大学院博士前期課程				
・研究コース	審査員・主査・副査			
・実践者養成コース	審査員・主査・副査			
○大学院博士後期課程				
主査・副査				
<b>(4) その他の研究活動</b>				
①受賞歴				
②研究に対する報道、書籍上での紹介				
③競争的研究資金の獲得		科学研究費補助金		
		奨学寄附金		
		その他( )		
④委託研究		国省庁		
		県地方		
⑤外部との共同研究		科学研究費補助金の共同研究		
		企業産業その他		
⑥学位授与状況				
⑦研究会活動				
	国際	立ち上げ運営		
		メンバーとして参加		
	全国	立ち上げ運営		
		メンバーとして参加		
	地方	立ち上げ運営		
		メンバーとして参加		
学内	立ち上げ運営			
	メンバーとして参加			
⑧学術雑誌の査読編集委員		国際	編集委員長への就任	
			編集委員への就任	
			査読委員への就任	
全国	編集委員長への就任			
	編集委員への就任			
	査読委員への就任			
地方	編集委員長への就任			
	編集委員への就任			
	査読委員への就任			

<次年度の課題と目標>

--

	自己評価	第1次評価者	第2次評価者	最終評価者
研究領域の評価	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D
特記事項				
評価者職氏名		印	印	印
大学院に関する記載 (*)の確認者職氏名		印		

※ S・A・B・C・Dのいずれかに○を記載。

## 看護学科 社会貢献領域における自己評価書

被評価者	所属名	職名	氏名

### <能力評価> 基礎科目担当教員は、該当する評価指標のみを対象として評価する

能力	評価指標	能力評価			
		自己	1次	2次	最終
看護革新 参画能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の社会動向を把握し、看護の動向、課題、問題に関連づけて把握できる。</li> <li>・研究成果を活用して、看護の改革改善に必要な政策やアイデアを提言できる。</li> <li>・看護の社会的役割や意義(価値、特性)を発信できる。</li> <li>・看護の革新に向けて、自分の専門性を活かして貢献できる。</li> <li>・自分の専門性や研究成果を活かして、看護実践の革新に影響力を及ぼすことができる。</li> </ul>				
地域の課題 評価能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の社会動向を把握し、地域におけるさまざまな課題を理解できる。</li> <li>・地域の課題に対して自分の専門性や研究成果がどのように生かせるか常に考察できる。</li> </ul>				
地域貢献 実行能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県の健康課題や看護の問題を把握し、課題解決策を提言できる。</li> <li>・香川県の行政機関、専門職団体、企業等と連携して事業を担うことができる。</li> <li>・看護学科の地域貢献について、方略や広報についてアイデアを出すことができる。</li> <li>・実習施設の看護の質の向上に対して、自分の専門性を活かしたアプローチを考え行動できる。</li> </ul>				
国際貢献 実行能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分ができる国際交流活動に参加できる。</li> <li>・学生の国際交流を促進するための必要な支援ができる。</li> <li>・国際交流を組織的に実施できるよう協力できる。</li> </ul>				
<b>【評価基準】</b> 5：他者の模範となる。      4：自立して安定してできる(他者に指導できる。)。      3：ほぼ自立して安定してできる。 2：努力しているが支援を必要とする。      1：知っているが実行できない。					

### <業績評価>

業績項目	件数	ウエイト	点数
<b>(1) 地域住民等に対して実施する社会貢献に関わる活動</b>			
①公開講座(大学主催を除く。)、講演会、講習会、出前講座などでの講演活動			
②診療・研究指導など保健医療機関における支援 (実習施設とのユニフィケーション等を含む。)			
③非常勤講師・特別講義などによる他大学、教育機関への教育支援 (認定講習会等を含む。)			
<b>(2) 学外の審議会、委員会等での実績</b>			
①国、県、市町等の審議会・委員会等の委員への就任			
②学外の民間機関・委員会等の委員への就任			
<b>(3) 学会、学術団体への貢献</b>			
①国際学会、国際学術団体	理事・会長・評議員・幹事等への就任		
	学会・学術集会運営委員長への就任		
	学会・学術集会運営委員への就任		
②国内学会、国内学術団体	理事・会長・評議員・幹事等への就任		
	学会・学術集会運営委員長への就任		
	学会・学術集会運営委員への就任		
<b>(4) 国際貢献</b>			
①地域の国際交流事業への貢献			
②JICA、JETROなどの行う国際的な協力事業への参画			
③その他 [概要]			

業績項目	件数	ウエイト	点数
(5) その他			
① その他のボランティア活動 〔概要〕			
② 社会貢献に関する賞の受賞 〔概要〕			
③ マスコミ取材(テレビ・新聞等)への対応 〔概要〕			
④ その他 〔概要〕			

※年報に記載する事項等を件数として記載。

<次年度の課題と目標>

社会貢献領域の 評価	自己評価	第1次評価者	第2次評価者	最終評価者
	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D
特記事項				
評価者職氏名		印	印	印
大学院に関する記載 (*)の確認者職氏名				

※ S・A・B・C・Dのいずれかに○を記載。

## 看護学科 運営領域における自己評価書

被評価者	所属名	職名	氏名

### ＜能力評価＞

能力	評価指標	能力評価					
		自己	1次	2次	最終		
組織運営 実行能力	改革姿勢と チャレンジ 精神	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗を恐れず挑戦している。</li> <li>・前例・横並びや旧弊を打破し、些細なことからも改善している。</li> <li>・自己の能力の向上を目指し、自己啓発を行っている。</li> </ul>					
	主体性と責 任感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の職責を自覚し、強い当事者意識を持って行動している。</li> <li>・困難な課題に際しても、安易に回避することはない。</li> <li>・問題の先送りをしない。</li> <li>・責任を転嫁することなく率先して対処している。</li> <li>・学長等にタイムリーな報告ができ、悪い情報ほど早く報告している。</li> </ul>					
	学生本位・ 地域本位	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生や県民にとって、今何が必要であるかを真剣に考え、ニーズに応じた対応ができる環境づくりに努めている。</li> <li>・理解や納得が得られるよう、親切で分かりやすい説明をし、相手方から好感の持たれるような礼儀正しい接遇態度である。</li> </ul>					
	公金の大切 さとコスト 意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公金は県民から預かっているものであり、無駄にはならないことを常に認識している。</li> <li>・経営感覚を持って最少の経費で最大の効果をあげるために、時間もコストとの意識を徹底し、仕事の効率化を図っている。</li> </ul>					
	協調性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同僚、関係機関等との意思疎通や連携を図っている。</li> <li>・自発的などりまとめを行うなど周囲と協力している。</li> <li>・自己の考えを過信せず、他人の意見にも耳を傾けている。</li> </ul>					
	規律・ 倫理性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の一員として大学のルールや教育研究等を進める上での約束事を守っている。</li> <li>・服務・職務規律の遵守など、他の模範となる言動がとれている。</li> <li>・公務員としての立場を自覚し、厳しい自己管理を行っている。</li> </ul>					
課題解決 マネジメ ント能力	決断力・ 判断力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の基本理念・目的・目標等を理解し、時宜を得た判断ができる。</li> <li>・全体の先々のことを考慮して判断できる。</li> <li>・報告、相談の必要性、相手及びタイミングを適切に判断できる。</li> <li>・突発的に発生した事項についても冷静に判断できる。</li> </ul>					
	折衝・ 調整力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の立場や方針、自己の意見を論理的に伝えることができる。</li> <li>・関係者等の意見を集約し、妥当な結論を見出すことができる。</li> <li>・困難に直面しても、粘り強い対応ができる。</li> </ul>					
	企画・ 開発力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を正確に検証し、問題点や課題が抽出できる。</li> <li>・斬新な発想、アイデアを取り入れて施策立案ができる。</li> <li>・目標達成に向け、効果的で経済的な施策として立案できる。</li> <li>・既存施策の効果を検証し、次の施策に反映させることができる。</li> </ul>					
学生支援 調整能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談に必要な教員の態度・対応が実践できる。</li> <li>・学生相談の体制、教員の役割・責任範囲(委員会、専門家との連携、抱え込まない等)を理解した上で、学生を支援できる。</li> <li>・学生相談の必要性を理解し(健康問題、メンタルヘルス、ハラスメント、経済困難等)、問題解決への支援ができる。</li> <li>・学生が自分のキャリアを主体的に考えていけるように、情報提供、助言、支援を適切に実践できる。</li> </ul>						
【以下、教授以上のみ】							
管理・ 統率能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・准教授・講師・助教等に対し、指導・助言を適切に行い、成長を促すことができる。</li> <li>・研究等の業務に対する参画意識を高めさせるような指導・助言ができる。</li> </ul>						
【評価基準】							
5：他者の模範となる。      4：自立して安定してできる(他者に指導できる。)。      3：ほぼ自立して安定してできる。 2：努力しているが支援を必要とする。      1：知っているが実行できない。							

＜業績評価＞

業績項目	業績評価			
	自己	1次	2次	最終
<b>(1) 学内の委員会等に関わる貢献</b>				
①学内委員会(専門委員会を含む。)における役割 ※委員会名、委員長・副委員長・委員の別等を記載のこと。				
②プロジェクトチーム、ワーキンググループにおける役割 ※チーム・グループ名、リーダー・メンバーの別等を記載のこと。				
●上記を踏まえた貢献に対する評価理由				
<b>(2) 学内の年間行事(③以降記載のものを除く。)に関わる貢献</b>				
①入学式での役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
②新入生宿泊研修での役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
③オープンキャンパスでの役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
④公開講座での役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
⑤地域連携推進センター業務での役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
⑥橄欖祭(ミニオープンキャンパスを含む。)での役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
⑦卒業式・修了式での役割* ※具体的な役割等を記載のこと。				
⑧三大学連携事業等での役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
⑨その他全学的な行事に関わる役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
●上記を踏まえた貢献に対する評価理由				

業績項目	業績評価			
	自己	1次	2次	最終
<b>(3) 全学的な運営に関わる貢献</b>				
①大学雑誌編集での役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
②広報誌編集、ホームページ編集・管理等での役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
③同窓会運営の役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
④設置義務のある有資格者等(産業医、衛生管理者等)としての貢献 ※具体的な資格等を記載のこと。				
⑤その他全学的な運営に関わる役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
●上記を踏まえた貢献に対する評価理由				
<b>(4) 学生確保に関わる貢献</b>				
①高等学校の先生方への大学紹介・入試説明会での役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
②高校生の大学見学での役割 ※具体的な高校名、役割等を記載のこと。				
③高校等が開催する説明会での役割 ※具体的な高校名、役割等を記載のこと。				
④高校等が開催する模擬授業での役割 ※具体的な高校名、役割等を記載のこと。				
⑤県内高校の進路指導担当教員等への訪問 ※具体的な高校名等を記載のこと。				
⑥県外高校の進路指導担当教員等への訪問 ※具体的な高校名等を記載のこと。				
⑦その他学生確保に関わる役割 ※具体的な役割等を記載のこと。				
●上記を踏まえた貢献に対する評価理由				

業績項目	業績評価			
	自己	1次	2次	最終
<b>(5) 入学試験に関わる貢献</b>				
<b>① 入学試験における役割</b> ※具体的な役割等を記載のこと。 大学院入試( ) ) 推薦入試( ) ) 助産学専攻科入試( ) ) センター試験( ) ) 一般前期入試( ) ) 一般後期入試( ) ) その他( ) )				
●上記を踏まえた貢献に対する評価理由				
<b>(6) 学生の支援等に関わる貢献</b>				
<b>① 主担当教員・副担当教員の状況</b> ※具体的な状況記載のこと。				
<b>② 学生への生活指導等の状況</b> ※具体的な実績等を記載のこと。				
<b>③ 学生への就職相談・支援等の状況</b> ※具体的な実績等を記載のこと。				
<b>④ 卒業生との交流会等での役割</b> ※具体的な役割等を記載のこと。				
<b>⑤ その他県内就職促進に関わる役割</b> ※具体的な役割等を記載のこと。				
●上記を踏まえた貢献に対する評価理由				
<b>(7) 看護学科の組織運営に関わる貢献</b>				
<b>① 看護学科における係名と役割</b> ※係名、リーダー・メンバーの別等を記載のこと。				
<b>② 看護学科内のプロジェクトにおける役割</b> ※プロジェクト名、リーダー・メンバーの別等を記載のこと。				
●上記を踏まえた貢献に対する評価理由				

業績項目	業績評価			
	自己	1次	2次	最終
<b>(8) 大学院看護学専攻の組織運営に関わる貢献*</b>				
① 大学院看護学専攻における係名と役割 ※係名、リーダー・メンバーの別等を記載のこと。				
② 大学院看護学専攻内のプロジェクトにおける役割 ※プロジェクト名、リーダー・メンバーの別等を記載のこと。				
● 上記を踏まえた貢献に対する評価理由				
<b>(9) 特に顕著な貢献(自由記載)</b>				
※上記記載内容で特に顕著な貢献と考えていること、上記記載内容以外で特に顕著な貢献と考えていることがあれば、記載のこと。				
<b>【評価基準】</b> 5：大いに貢献した。 4：かなり貢献した。 3：普通に貢献した。 2：少しだけ貢献した。 1：(参加だけで)まったく貢献しなかった。				

※ 役割がなかった場合には、業績項目の欄に「-」を記載。

<次年度の課題と目標>

	自己評価	第1次評価者	第2次評価者	最終評価者
運営領域の評価	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D	S・A・B・C・D
特記事項				
評価者職氏名		印	印	印
大学院に関する記載 (*の確認者職氏名)		印		

※ S・A・B・C・Dのいずれかに○を記載。